

2021年日本農業史学会・学会賞候補業績募集および研究報告会(募集)のお知らせ

会員各位

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日本農業史学会より標記の件について、以下の通りお知らせします。

(I) 2021年日本農業史学会賞(学会賞・奨励賞)候補業績の募集

以下の通り、2020年日本農業史学会賞(学会賞・奨励賞)候補業績を募集いたします。

[学会賞] (1) 対象者：優れた研究業績を公刊した40歳以下の会員(研究業績刊行時点)

(2) 対象業績：過去2年間(2019年1月～2020年12月)に公刊された著書およびそれに準ずるもの

[奨励賞] (1) 対象者：将来の発展が期待される研究業績を公刊した40歳以下の会員(研究業績刊行時点)

(2) 対象論文：過去2年間(2019年1月～2020年12月)に公刊された論文およびそれに準ずるもの。

[応募方法]：本会会員の推薦によります(著者自ら推薦することを妨げない)。推薦に当たっては、所定の推薦書を付してください。一度対象となった業績の再応募は認められませんが、同一人物でも別の業績であれば差し支えありません。

推薦書および対象となる業績(著書の場合1部、論文の場合5部(コピーでも可))を事務局までご送付下さい。締切りは、2021年1月31日といたします。

「推薦書書式」は、学会HP(学会規約→日本農業史学会賞表彰規程細則→「別添書式(学会賞推薦書)」または「別添書式(奨励賞推薦書)」)からダウンロードしてください。

<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/institution.html>

学会賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki1.doc>

奨励賞推薦書：<http://agrarian-history.sakura.ne.jp/doc/suisenshosiki2.doc>

なお、学会賞と奨励賞はそれぞれ別の書式を使用することになります。ご注意ください。

(II) 2021年日本農業史学会研究報告会に関するお知らせ

先にお知らせしましたように2021年の日本農業史学会大会は、昨年7月の延期大会と同じく、オンラインと実出席のハイブリッド方式(本部：京都大学農学部)で行う予定です。

記

日時：2021年3月29日(月)

午前：個別報告、午後：大会シンポジウム

(*例年と異なり、日本農経学会大会(オンライン大会)の翌日に行います)

会場：オンライン(京都大学農学部)

①個別報告の募集について

個別報告をご希望の方は、下記要領にて電子メール(ないし郵便)で学会事務局までお申し込みください。(報告はオンラインでも、実出席でも可です)。

1) 必要書類：申込用紙（氏名、所属、報告タイトル、連絡先、メールアドレス）

および報告要旨（1,000字以内）。書式は任意です。

2) 申込期間：2020年12月28日（月）～**2021年2月12日（金）**

3) 申込先：学会事務局まで。

メールの場合：office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵送の場合：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻比較農史学分野気付

日本農業史学会事務局まで

なお、報告時間は最長で50分（報告40分、質疑応答10分）を予定しています。（ただし報告者数が多い場合には短縮されることがあります。あらかじめご了承ください）。

会員各位の積極的な応募を期待しております。大会プログラムは2月上旬にメールにて改めてご案内する予定です。

②2021年日本農業史学会シンポジウム

現代農業史資料の保存と活用—その歩みと今後の課題—

オルガナイザー：安岡健一（大阪大学）

【趣旨説明】

歴史研究において基礎となるのは、なによりも歴史資料である。近年、公文書管理法の施行や自然災害後の歴史資料保存活動が各地で展開されるなど、資料保存への意識が高まるいっぽうで、保管場所の確保や整理に要する人件費等の課題から保存の危機に瀕する資料群も少なくない。

農業史研究もまた、この課題と無縁ではない。その一例が、全国農業協同組合中央会（全中）が、東京都町田市に1979年に設置した協同組合図書資料センター所蔵資料である。本センターは貴重な資料を所蔵することが研究者に知られてきたが、センターの廃止にともない所蔵資料の保存場所も失われ、一時的に全中が管理している状態となった。那須文庫をはじめとする、これまで収集されてきた貴重な個人文庫は関係者の努力により国文学研究資料館にて保存されることが決定したが、農協活動にかかわる組織資料（以下、全中資料）の保存先は定まっていない。

これに対して2019年度より農業協同組合論、日本農業史研究者有志による科研の共同研究（科研・基盤研究（B）「戦後農政の展開過程と農業協同組合：全中所蔵資料の検討を通じて」研究代表者：石田正昭）が発足し、全中資料の整理と保存を目指して全中と協力しながら活動してきた。戦後農協の設立以来の、農政活動、農協経営、農協運動など広範な内容を含む全中資料の目録が科研を通じて作成され、今後は内容にかかわる研究がまたれる貴重な資料であることは間違いない。

全中資料に限らず、今後、各地域において多種多様な農業史資料の保存が課題となっていくことは確実である。そこで本年の農業史学会シンポジウムでは、全中資料に関する科研グループからの報告に加えて、資料保存・移管の先例として、福島大学に移管された農文協図書館の資料、および地元に移管された積雪地方農村経済調査所の資料を含む旧農業総合研究所積雪地方支所の図書資料についてそれぞれ関係者から報告をいただき、その達成を共有する。

また保存と対をなす利用の観点から、国内外における資料利用の観点からコメントをいただき、今後の課題について検討する。以上の報告とコメントを題材に、意見・情報交換を行

い、農業史資料保存に対する意識喚起を目指す。日本農業史学会では 2007 年度にも、国有林資料の保存と活用を大会シンポジウムの主題とするなど、資料保存について議論してきた。将来世代への責任という観点からも、学術団体として資料保存について継続的に考えるきっかけとしたい。

座長：安岡健一

報告者（五十音順）

資料保存の観点から（報告）

大鎌邦雄（東北大学名誉教授）

林薫平（福島大学）

水島和哉（京都大学）石田正昭（同）・仙田徹志（同）

資料利用の観点から（報告・コメント）

坂根嘉弘（広島修道大学）

齋藤邦明（和光大学）

御手洗 悠紀（京都大学大学院）

*オンライン参加方法および実出席者向けの会場案内は、2月上旬の報告会案内をお送りするさいに詳細をお知らせします。

日本農業史学会事務局

office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵便振替口座 00180-9-20117

（連絡先）〒606-8502：

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻

比較農史学分野気付

Tel： 075-753-6184(足立)、Fax 075-753-6191